

昭和三十年六月二十四日招集(才号)

第二面市議會定例会之議錄

昭和三十八年第二回館山市議会定例会之議録(才一号)

昭和三十八年六月招集

一六月二四日(月曜日)

一現在議員三六名でその氏名次々通り

一	番	吉田勇治郎	二	番	鈴木正一郎
三	番	小柴孝	四	番	館石伝蔵
五	番	田中祿郎	六	番	秋山大三郎
七	番	田村源治郎	八	番	望月照正
九	番	安西益男	一〇	番	辻田実
一一	番	石井正	一二	番	黒川佐太郎
一三	番	菊井敏博	一四	番	志村信作
一五	番	小沢恵太郎	一六	番	駒武夫
一七	番	飯田義男	一八	番	西村真次
一九	番	藤岡好治	二〇	番	保科忠夫

二一番	江田徳太郎	二二番	君塚喜三
二三番	中村省吾	二四番	島野茂樹郎
二五番	萩生田七郎	二六番	鈴木 孝
二七番	嶋田 繁	二八番	山田教宇
二九番	鈴木市蔵	三〇番	安藤竜吉
三一番	安沢徳順	三二番	三沢 節
三三番	高橋文治	三四番	山本 昇
三五番	松本藤太郎	三六番	山口 康
一 議事日程 (第一号)			

才一報告才七号 昭和三七年度館山市支出入支予算追加更正に

関する専決処分報告

才二報告才八号 昭和三七年度館山市し尿処理施設建設事業

継続繰越計算報告

才三 通告質問

才四 議案才六二号

館山市取員定数条例の一部を改正する条例の制定

について

議案才六三号

館山市消防本部条例の一部を改正する条例の制定

について

才五 議案才六四号

館山市消防署条例の一部を改正する条例の制定

について

議案才六五号

館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定に

ついて

才六 議案才六七号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

才七 議案才六八号

館山市防災会議条例の制定について

議案才六九号

館山市災害対策本部条例の制定について

才八 議案才七〇号

館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定に

才九 議案才七一号

昭和三十八年度館山市公営住宅建設工事請負

契約の締結について

オ一 議案オ七二号

寄附の收納について

議案オ七三号

館山高等学校工業課程の備品購入契約の締

オ二

結について

議案オ七四号

館山高等学校工業課程の備品購入契約の締

結について

議案オ七五号

昭和三八年度六月に支給する期末手当の特例

オ二

に關する条例の制定について

議案オ六六号

非常勤の特別取の取資に係る報酬及び費用
弁償に關する条例の一部を改正する条例の制
定について

オ三 議案オ七六号

昭和三八年度館山市入支出追加更正予算

オ四 議案オ七七号

昭和三八年度館山市特別会計国民健康保険

入支出追加更正予算

オ五 議案オ七八号

昭和三八年度館山市特別会計休養施設入支出

追加更正予算

才一六 議案才七九号

昭和三八年度館山市特別会計鉅切水道々入々出

追加更正予算

才一七 臨時出納検査之會議員、互選について、

才一八 消防委員会委員選任について

一、法第百二十一条による出席説明員

市長 本間 穰

助役 小出 武男

収入役 完 戸 貴

総務課長 山 口 実

秘書課長 小 倉 澄男

税務才一課長 高 木 哲 三

税務才二課長 多 田 俊 一

農産統計課長 伊 藤 幸 太 郎

保険課長

池田亮山

厚生課長

吉田新一

福祉事務所長

鶴沢貫寛

市民課長

羽山房雄

建設課長

新井重助

商工水産課長

長谷川広治

観光課長

小沢正治

企画室長

谷貝茂生

選管書記長

大嶋重義

診療所事務長

岩崎一郎

教育課長

工藤和平

庶務課長

干場伊右衛門

消防署長

岩田実

一本議会の事務局長、書記及び取員

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

太田博雄

書

記

矢藤恭一

取

員

錦織睦子

出席議員

三五名

欠席議員

一名

九番

安西益男

六月二十四日 午前十一時開議

・議長（黒川佐太郎君）本日の出席議員数、三五名。

こゝより身二回市議会定例会を閉会いたします。

本定例会の議案説明のため、本町市長、小出助役、
定戸収入役、山口課長、小倉課長、多田課長、長
谷川課長、小沢課長、新井課長、羽山課長、
伊藤課長、池田課長、高木課長、吉田課長、
鶴沢所長、谷貝室長、大嶋書記長、岩田署
長、工藤教育長、干場課長、岩崎事務長、以上
の出席を求めましたので、市報告いたします。

会議録署名員の決定を行います。

本定例会の会議録署名員に二番議員、鈴木
正一郎君、三五番議員、松本藤太郎君、以上
両君を指名いたします。

これにて市議会でございます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）や異議なしと認めます。よつて、
★以上を通り決まりました。

会期の決定を行います。

本定例会の会期につき、議会議事協議会の意見は、本二四日から二六日まで三日間ということ
であります。

お知らせいたします。

会期を三日と定めますことにや異議ございませんか。
（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）や異議なしと認めます。

よつて会期は三日間と決定いたします。

この際お知らせいたします。

追々、季節も炎暑の候となりますので、当分の間、

略衣により会議を行いたいと思います。

これに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よろ
決定いたしました。

本日の会議は、お手元に配付の日程表により行
います。

これより市長の提案理由の説明を求めます。

(市長本間謙君登壇)(拍手)

市長(本間謙君)本日ここに昭和三十八年度六月定例
会を招集し、当面する諸案件のうち審議を願
うことにいたしました。

今回提案申し上げるものは、条例改正がおもなもので、他に工事、教材購入の契約、寄付の収入並び

に追加更正、予算等でございます。

その概要を申し上げますと、条例関係におきましては、消防庁舎建設に伴う消防力強化、並びに署業務のための条例改正三件、この施行に伴い、災害対策に関する条例二件、期末手当の特別その他四件、契約関係につきましては、市営住宅の工事請負並びに館山高校の教材購入等について契約三件、また寄付の収受は、館山高校P.T.Aより校舎の寄付申し込みでございます。また、これを受け入れようというものでございます。次に追加更正予算でございますが、財源見通しがいろいろあります。即ち一般会計におきましては、

退職者費並びに人事異動に伴う人件費の更正

がおもなもので、二百六十九万五千円ほどの追加でございます。

追加いたしましては、観光費におきまして、六十一万五千円、また今回の災害復旧による費用、九十五万五千円、教育費におきまして、三十五万六千円、鋭切簡易水道への繰出金、九十三万円でございます。

この財源は、国庫補助金、寄付金、使用料、並びに休養施設繰入金等でございます。

また特別会計国保におきましては、退職者並びに人事異動による人件費の異動がおもなもので、総額八十八万円でございます。この財源といたしましては、前年度の繰り越し等を充てております。

休養施設におきましては、シーズンをはかえて修繕料、前回の指摘の通りふとんの借上料を更正して購入い

たすことといはしハ十四万三千六百円で追加取源は
前年度の繰越金を充當いたしてあります。

次に鋭切簡易水道でございますが、これは、国民休
暇村関係において若干の計画変更があり、そうた
めに更正を行なったものでございます。

次にかねて懸案となつております、教育委員、監査委
員の選任、同意の件でございますが、今回上程いたし
たいと存じますので、なにとぞ、中同意下さいますよう
お願い申し上げます。以上、きわめて簡明単に申し
上げまいながら、各議案につきまゝては、上程の都度
関係課長より詳細により説明申し上げますので、
なにとぞ、慎重に審議の上、賛同下さいますよう
お願い申し上げまして、私より挨拶といたします。

・議長(里の佐太郎君) 市長の説明を終わります。

・議長(黒川佐太郎君)市長の説明を終ります。なお、四月、五月、六月の例月検査報告はお手えに配付の通りであります。

こゝより日程に入ります。

日程第一 報告第七号 昭和三十七年度 館山市歳入歳出の追加更正に関する専決処分報告。

(書記朗読)

報告第七号 昭和三十七年度 館山市歳入歳出予算について追加更正に関する専決処分報告。

・庶務課長(干場伊右エ内君)中説明申上げます。

こゝ専決処分を行いまうのは、本年三月二十六日か
いて申請してありました館山高枝の建築補助金の
決定通知がありましたが、三月の定例市議会に終
って間もなくでありまして、また年度末でもあったの

で、専決処分をお願いいたした次第でございます。

その内容について申し上げます。当初県費補助金といまして、高校の建築補助金として、百十六万円、それからその他で十二万四千円、合計百二十八万四千円を計上してあったのでありますが、建築費の補助金が二百万円に決定いたしましたので、八十四万円を追加いたしまして、合計二百十二万四千円といたしたのでございます。

それと同時に国庫補助金二百三十二万円が計上してありましたが、これが交付さへないことが確定いたしましたので、これを更正いたしまして、この二百三十二万円と県費補助追加の八十四万円の差額、百四十八万円は地方交付税を追加したものであります。なお、この際この補助金の対象といたしました鶴山高校の工業

課程建設の工事内容について、簡単に申し上げたい
と思います。

工事内容といふことは、校舎が一棟、普通教室が
三、管理室が一、四つであります。

構造は、木造の一部、ブロック張り、坪数は、一四九坪、
工事が五百六十三万円でございます。

資金の内訳といふことは、県費補助が二百万円、
起債が二百万円、一般財源が百六十三万円、合計
五百六十三万円になっております。以上のような状況で
ございます。よろしく御審議のほどをお願いいたし
ます。

・二九番（鈴木市蔵君）ちつと伺つて見たいと思います。
国が補助がなくなつた。

果ては補助が八十万の少なくなつた。その場合、熊本市

は、館山高校においては、館山市内から四割、六割が市外地だというふうに承っておりますが、そういうような補助の対象がどのようにした場合には、市外の町村に対して、この問題について話し合ったことがあります。

・教育長（工藤和平君）　ございません。ただし、工業課程の整備計画について各町村と十分な打ち合せをいたしております。

・二九番（鈴木市蔵君）　そういう話し合いがないというところでは、館山市財源からむしろ出ていると私は解釈するのですけれども、こういう問題に対しては、館山市外から何年計画かでその施設に対して市外から幾分かの補助がもらえるというふうに働きあんでおるのです。が、こういう場合になつたら何とかもう一度こういう問題を話し合つて見ていただきたいと思つております。

が、この点とくと、教育長さんをお願いいたします。

・二七番(嶋田繁君) 私は先般文教委員会において各義務教育館山高校、そういうところを十分視察いたしたのですが、特に館山高校はP・T・Aの協力によって非常に設備もよく、本当にP・T・Aに感謝してあるうでありますが、ただ敷地内うまん中に加藤河がしという方の地所が残ってある。これについては果して交渉を進めてもらいますか。交渉も進んであるとしたらば、その経過はどういうふうになっておりますか。なるべく早く解決していただきたいという希望をもっておりますので、この点についてはつきりも説明を願います。

・教育長(工藤和子君) 土地の買収の問題は、非常にむづかしい問題でございまして、この点につきましては

して昨年度から地元の市会議員、市当局、教育委員会当局、これらをもって構成していただこうの土地買収委員会なるものを構成していただこうございます。これによって各地主、小作人等に数次にわたる折衝をいたしまして、着々了解を得て円満に進行してきたのでございますが、一部お話しのようにまだ解決に至らないところがございます。これにつきましては各地の希望がございまして、いま一つきまりましては各地の希望がございまして、なかなか思うにまかせません。

私たちも一日も早くこの解決を要望していろいろな手を尽し、与う限りの努力をいたしておるわけでございますけれども、なかなか実現しないで今日に及んだ次第でございます。

今後ともいっそうの努力をほらいまして、円満に解

決するようになり努力したいと思っております。

。二七番(嶋田繁君)了解いたしまして願わくばその熱意をもってやるべく早くいんが完成に努めていただきたい。こういうことを特に申し上げておきます。

。議長(黒川佐太郎君)いんが質疑を打ち切り討論者略本案を承認することにや異議ございませんか。
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本案は原案通り承認さしよした。

日程才二報告才八号

(書記朗読)

報告才八号 昭和三七年度 釜山市し尿処理施設建設事業継続費繰越計算報告

。厚生課長(吉田耕一君)報告才八号につきよして説明

申し上げます。

こゝし取処理施設う建設事業につきまゝてけ、昭和三六年度乃至三八年度までの三カ年継続事業として実施して参つたわけでございます。

三七年度にまさゝて計画いたしヨ一た事業費四千六百二十四万七千余円を予算計上したわけでございます。三七年度中う実施支払い済額が三千九百八十九万余円と相なつたわけでございます。残額六百四十四万三千余円を八年度の事業に繰り入れまゝて実施完成いたしたい。こゝうに考えまゝて自治法施行令の一六一条一項の規定によりまゝて本議会に報告いたす次第でございます。なお繰り越し六百四十四万余円に對します事業の概要でございますが、井戸工事につきまゝて、二百五

十万円余の工事を計上したわけでございますが、工期の延長等によりまして、百三十七万五千円余が、残さし繰り越さしたということでございます。

次の追加工事でございしますが、三百十六万六千五百円でございますが、高圧自電、その他給排水施設の工事が、やはり工期延長に伴いまして、繰り越さしたというふうなやむを得ない状態になったわけでございます。次に百二十一万六千五百円につきましては、整地工事等が七年度で行えなかったというふうな関係からいたしまして、おもしろい三つの工事を主体といたしまして、八年度に繰り越したいというふうに、事業の完成をはかりたい。このように考える次第でございます。

ただ今申し上げました三つの工事の大体の額が、五百七十五万六千五百円でございます。その他、残額、天

十九万余円につきまゝでは、これに必要な需用費
関係につきまゝで当然繰り越しを必要といたし
ますので、合せて六百四十四万四千余円を八年度
に繰り越しをいたしまして、目的を完成いたしたい。
このように考えまして繰り越しをお願いしようと
いうものでございます。

○二七番(嶋田繁君)これは当初の予算会議にも私は
意見を申し上げておきまして、ああいう大きな恒久
的施設を建てるにつきまゝでは、地所がなまべく
市の所有にいたしましてそれに建てるのが、本体であろ
うと思います。これが今まで、そういうふうに運んでくら
ない。これについて果して熱意をもって交渉に当って
おられますか。まだ、そのまゝこれを捨ててありますか。
その点をはっきり伺いたい。

もう一つ、竣工式が終った。終ったがまだ事業が残って使えない。こういう点もこの際、どういうわけであるか。それも合わせてお聞きしたい。こう思います。

・厚生課長（吉田新一君）お答之申し上げます。オ一点、やはり質問でございますが、用地は現在借りておるわけでございます。それを買収して市の施設、完全な管理をするというふうな考え方で私たちもあるわけでございしますが、最初からの経過を見ましても早急に買収をいたさまゝして施設を建設するということ、な段階が相当困難であるというふうな関係からいたしまして、現在、借用によりまして使用をしてゐるような状態でございます。

私たちといふにしても、永久的な構造物でもございますので、できるだけ早い期間におきまして地主と話し合

いよいよ、買収を早急に進めようとして市の所有としてみ
今後維持管理をいたしたい。このように考えるわけ
でございしますが、その後、現在までにおきましても時
折^正式ではございせんが、地主さんには、賃貸契約で
なく売買による市の土地としてみ譲つていただきたいと
いうことを再三申し上げておるような次第でございます。
熱意の点におきましては、そう一面で強く進めてお
るわけではございしますが、なめなめさだめに付帯いたしま
すところ、裏山、灌漑施設というふうな面の完成
というふうな点等も、分地主さん、或いは土地の方
々も考慮されておるようではございすので、あそこ
の完成を契機といたしまして、何とか買収に踏み切
つて参りたい。このように努めたい。このように考
えておる次第でございます。

オニ点の竣工式は済んだというふうな過程で現在ま
だ、実際に使用段階に至っておりません点でございま
すが、私ども本当におわび申し上げる以外はございせん
しかし、私どもといえしましても業者に対してござい
るだけ早急に完成をというふうに急がせておるわけで、
ございすが、後半からの天候不順というふうなもの
も相当影響をいたしまして、現在の段階になっておる
わけでございますが、大体の概況といえまして、電
気工事施設等もきょうあたり完成する予定で
ございまして、今日あたりから水を入れまして、
試運転を実施いたしまして、一日乃至一四日、水試
験を行うということになっておりまして、それが終了ま
してから本物を入れまして操業運転というふうな
段階をもって参りたい。こゝうに考えまして、業

者とう話—合いによりきすと一四日以後というこ
とでございますので、来月の下旬には、投入操業を
いたしたい。こゝうように努力いたしてありますので、
よろしくやう承願いたしたいと思います。

・ニ七番(嶋田繁君)熱意のほどはよく了解いたしまして、
今後いっそう馬力をかけてなるべく早急に交渉を進
めていただきたい。これを希望いたしまして、賛同を
打ち切ります。

・一八番(西村真次君)ただいまう説明に關連いたしまして、
私は統務委員といたしまして、先般し尿処理場を
視察の機会を得たわけでございますが、そう際、井戸
を作成中でありましたが、そこにありまして係う説明
によりきすと、やった井戸水では、量が足りないとい
う。なお話を承わりました。こゝう足りない井戸水で

二五日頃に使用が出来ますか、どうか。その点をお伺い
したいと思います。

厚生課長(吉田耕一君)お答え申し上げます。

現在うし尿処理場の水源が十分ないというよう
な状況でございしますが、私どもいろいろ検討いたし
まして、なお技術員等の意見等もお伺いいたしま
して、現在の段階としては、十分補給できるとい
うふうに考えるわけでございます。

従いまして、現在ポンプ小屋の一つの井戸だけでは不
足いたすわけでございしますので、他にもう一つ、ボーリ
ングして掘っておりますので、その水を合わせますと
現在の処理水には、こと欠かぬという考え方で進
めております。しかしながら、地耕下水でございま
すので、今後水脈等の変動等も起くる時期も

あるというふう^に考^へえ方から今後、たゆまない水源
の対策確保に努めて参りたい。こゝように考^へて
お^ります。

結論といたしましては、現在の段階ではあるとい
うことで、私ども進めてお^るわけでございますので、
承^願いたいと思^います。

二八番(西村直次君)使用の見通しが可能であると
いう中、説明で大へん満足いたしま^したが、ただ今
市内^の清掃車の方も捨てる場所^に困^つてお
るという実情も伺^つてお^りますので、なるべく速
やかに事業ができてすように要望^してお^きます。
二番(鈴木正一郎君)処理場の完成^の時期でございま
すが、七月一四日頃、確^実にでき^ますか。

・厚生課長(吉田耕一君)七月一四日まではできるとい

うふうに確信をもってあります。

・二番(鈴木正一郎君)観光の面でもできるだけ早く完成さしていただきたいと思っています。こゝ前、私ももう方であつたことでございますが、川に投棄したところ、その下の川うところに消防の貯水池がございまして、これが時々ため黄金の貯水池になつてしまつたという状態もございまして、それがさらに流れると海水浴場に流れるという結果にさへなる次第でございます。できるだけ七月の一四日、早ければもっと早く完成したいということを願ひしたいと思います。

・議長(里佐太郎君)これにて質疑を打ち切り討論
省略原案通り可決することに決まらば、異議ありませんか。

(要議なしと呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)片要議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程才三、このより通告による一般質問を行います。順番により一々番議員、辻田実君登壇願います。

(一々番議員辻田実君登壇)(拍手)

一々番(辻田実君)農業基本法才三条の規定に基^きく市におきますところの農業構造改善事業は昭和三七年に農林省の指定を受けて今日に至っております。この農業構造改善事業が市の産業上において重要な役割をもっていると思ひます。

従いまして昭和三八年度中に計画立案を完了させまして来年度には一億二千五百万円をもちまして、実施の段階に入らうとしておるときにこのよう

点について中實町申し上げたいと思うのであります。

現在、熊本市の産業を見ますときに、昭和三五年の国勢調査によりますと、産業税就業労働者数において農業が占める割合が全体の三四・六%、九、一二二人の農業労働者がおるわけでございます。

そうして、その農家の世帯人員として四、二六九戸の農家に一五、六四四人の家族がおります。

従って、商業労働者が四、六七四人で八、四九〇人の家族を養い、さらに製造業の労働者が二、六五六人で五、六三七人の家族を養つておるのに比べますと、いかに農業の占める位置が重要であるかが、わかると思います。それにもかわらず、農業に

従事する人は昭和三〇年には、九九三五人もありましたが、昭和三五年、すなわち、五年間に八一九

人もの農業労働者が減少して九、一六人にかつております。

特にその中におきまして、青年男女が平均四割位減つておるうでございます。すなわち、一五々から三々々までの男女の労働者が四割位と減つておるうでございますから、年々農村におきますところの青年男女が熊手市を離れていくという傾向が、この中に現はれてゐるうであります。

どうして三々々から四々々までの女子の労働者が多少ではございますけれども、この中においてふえておるということとでございます。このことは、熊手の農業が女子の手に移つておるということとを如実に示してゐると思ひます。さらにこの点を階層別に見ますると、昭和三〇年には、専業農家が

全体の三七・四%であつたものが、三五年には、三一・八%とわり五・六%減つてゐるのでございます。

オ一種兼業農家もこゝにひらつて八一%が減少してあります。こゝに反してオ二種兼業農家が一二・七%も増加してゐるという事実でございます。こゝを県下の平均と比べて見ますと、専業農家の占める割合で一三・四%も銚山市は少ないうであります。オ一種兼業農家も同様にして一・三%がすなひの対してオ二種兼業農家は一四・七%も多いことがわかるのであります。このことは、銚山市が産業別に見たとき、工業、即ちオ二次産業の割合が非常に少ない中にあきまゝで、このようない実態であつては銚山市の産業施策がどこにあつたのか疑がわゆるのであります。

私は、このように現在著しい勢いで農村が分解し、さらには、館山市の農業が分解している中におき、そして、農業構造改善事業の実施に当って、このうな農村の分解、さらには、農業の分解についていかに対処して参ったか、お伺いしたいでございます。オニと云つて、昭和三七年に農業構造の改善事業の指定を受けた直後に、館山市におきましては、一ヵ地域にわたり、農業構造改善事業推進説明会ということとで、明かに、一億二千万円事業資金を均分して事業計画を立てていきたいということとで説明がなされて参りました。一ヵ地域ながら、昭和三八年三月に六地域によって行われ、たところ、同様の説明会におきましては、重点的領域を、二カ所、一は、って実施をしていきたいという説明が

なされて参りました。なぜ、このように均一に行なつていくということによつて發足したところの改善事業が一年たらないうちに變更せざるを得なかつたのであるか。この点をお伺いしたいのであります。こゝらう点を含めまゝて今日に至る農業構造の改善事業の今日までの経過を具体的に説明をしていただきたいと思いますのであります。オ三点目には、農業構造改善事業費のことについてお伺いしたいと思うのでございます。事業規模は國の法律によりますと大むね一事業体に対して、一億一千万程度で行なつてもらいたいというところが書かれてあります。

釧路市では一億二千五百万円程度に上つて実施したということをお伺つておりますけれども、この点はどうなつてありますし、どうか。そうすると、農林省の補助

金が昭和三九年に実施する県下の一一地域では、最高額の五千二百三十五万円の補助を熊山市は受けるわけでございますけれども、残り資金についての約七千万円はどのようなように捻出さして行くのであります。さしうか、この点をお伺いしたいわけですが。

私は過去年において、新農村建設事業として熊山市が支出した金が五千万円と伺い、現在では本年度予算に千六百万円の資金が計上されております。これらの面を考へ合せて、農業構造改善の実施に伴い、他の残り融資金が市の予算の上にとらには、系統資金の上に影響は与えないのか。これらの点を具体的に伺いたいと思つてあります。この点を誤りですと、農業構造の改善事業が改悪事業になるおそれが多分にある。

と思うのであります。

お伺ひの点は農業構造改善事業の実施は、館山市農業をいかなる方向にもっていくのか、お伺ひたいのであります。

新農村漁村建設事業で有効な送の設備をいたしました。このことは知っておりますが、その他、面ではどのような施策がこの事業の中であったか、お伺ひたいと思うのでございます。

さらに主産地作物の造成に対するところの補助事業をいかに参つてきております。この事業とこのたび行われるところの農業構造改善事業とは、どうように結びついていくのか、この点についてお伺ひたいのでございます。

私がこういふ点について、本当にお伺ひたいことは、昭和三五年の農業所得、館山市におきます一人当りの

収入が八万七千二百円なのであります。

昭和三四年より三千五百円、減少しておるでございます。これを鑑み市におきますところのオ三次産業、すなわち商業、サービス業、こういうものの平均が二十九万九千八百円であり、昭和三四年に比べて三万四千七百円も増加しておるでございます。即ちオ三次産業とオ一次産業の農業との格差は、昭和三五年で何と一人当り二十九万二千六百円もあつたのでございます。今日、日本う経済は、年々上昇をたどつております。その上昇率は、約一〇％にならうとております。こういう中におきまして、鑑み市の農業が昭和三四年から三五年に對して減少してゐるという事実、さらにこういう事実は、今日に至つても解消されてない点が見うがせないうでございます。

この点についていかに考え、そうして農業構造改善事業の中においてどのような形において解消していくのか、私は伺いたいのであります。

最後に農業構造改善事業の実施につきましても、熊山市は今日に至るまでの間に農業の将来に対応するところの長期計画、このようなものを立てらなければならないという点でございます。

一昨年、千葉県におきましては、昭和六十年度を目途に、完全自立農業経営の造成、さらには、過渡的な自立農家の形成、健全兼業農家の形成、さらに所得の倍増、健全農家の育成とこれらの点について長期計画を発表し、それに基づきまして農業構造の改善事業は、推進してありますけれども、熊山市においては、このような長

期約の計画が作られてゐるのか。そうしてそれは、どのような形において、今後農業構造改善事業と結びついて行われていくのか。お伺いしたいのでございます。新聞紙上にありますと、この六月をもって農業構造改善事業の指定地を決定し、そうして果てにこれを上申するということの方が流されておりますけれども、現在どのような規模でどのような地域に、どのような話が、どの程度進んでおるかということについてもお伺いしたいのでございます。

以上をもちまして、私の質問にかえさしていただきます。

(市長 本町 議 君 登壇)

・市長(本町 議 君) 辻 田 議員さんの中、質問に対して、
ーでお答えいたします。

才一点、農業構造改善事業の指定を受けていかなる経過をたどってきたかというやり質問のようでございますが、これにつきましても、昨年九月五日指定を受けて以来、所管課員の研修、先進地の視察を行い、まず、取組みから知識の吸収に努めて参ったのでございます。

一月一二月、館山市農業構造改善事業協議会を設置し、本市農業構造改善計画の調整その他、実施に必要な調査を行なっております。

なお、本年三月より市内農家に対し、本事業の趣旨及び内容を普及徹底せしめるために田村地区を対象として説明会を行い、その後においても部落の要請による座談会等に出席し、なお、いっそう普及に努めたのであります。一応説明会、座談

会の終了を見たので四月中旬各部落に対し、事業実施の希望を申し出るように通知し、実施希望の部落を取りまとめ内容の検討を行い、六月六日日本市農業構造改善協議会に報告し、目下、協議会において検討中でございます。

オニの市實地農業構造改善事業計画の実施が農村の分解を求めて一割農政の転換をもつていゝが、いかに考えておるか、これに対してお答え申し上げます。

農業構造改善は申すまでもなく、農業と他産業との所得格差をなくすることにあり、事業の実施はこゝろ目的にそうものでなければならぬ。

実施地域農民は新しい農業経営方式による所得の向上を得らる計画の実施であり、農村の

分解というふうなことは考えられないと思うのであります。
オ三の市質向農業構造改善事業の市の補助金
融資金についていかに考えておるか、これに対するお答
えを申し上げます。

農業構造改善事業費は国、市町村全国平均
九千万円が半額国庫補助、融資単独事業費、
二千万、計一億一千万円となっております。

各市町村の実情、農地の広い狭い、農家戸数等
によつて差が付けられるようになっております。

本市の場合、事業総額が一億三千万円と推定して
あります。補助金五千四百三十万円、受益者の負
担額同額、単独事業費二千五百万円、

補助の内容を申し上げますと、土地基盤整備事業
に対しては、前には五割でございましたが、今度け

七割になつてゐるでございす。

近代化施設に對しては、五割の補助となつてあります。受益者負担額、八割は、長期融資がなされることになつてあります。

四、五、農業構造改善事業の実施は、餘り市町村農業に對しては、いかに意義を持つか。それは、いかに計画で進められてゐるか。こういうやり方、町でございす。すが、現在、農業経営の方式は、水稻を中心に、この、稲、蕎麥、果樹、蔬菜、花卉等も取り入る。いりゆる多角経営でございす。従いまうて、次代をになう人が労働適重でさう上、所得がすなひの、で農業に見切りをつけて、有利な他産業に走ると、いう現象が起りつつあり。このまま放置すれば、農業の経営が果して維持できるかどうか。甚だ、老後の

念を禁じ得ないでございす。

このような折から農業構造改善事業の実施により
農業の合理化経営のもとに所得の向上を期し得
らるるならば、本市農業のきわめて重要な意義を
持つものであると確信いたします。

しかしながら事業の実施につきましても、市の補助
及び融資がなされないとはいえ、個人が多額投入は
論を待たないので地域農民の理解が望まるところ
であり、これについて目的を達し得ないうで
あります。事業内容の検討はもちろんのこと、然る
ところも重点を置き、地域を指定して実施されるので
あります。

第五の予算、農業構造改善事業協会の実施
はいかなる見通しでいつ頃、どう地域をどうように

て行かう。これに對してお答え申し上げます。

現在、本市の農業構造改善事業協議会に地域決定を諮問してありますので、近く答申がなされる見込みであります。これによつて果ては指導もあつたが、三九年度より、実施目途を立てて、現在進んであります。以上でございます。

なお、課長もおりますから、併しのことには、課長から説明申し上げさせていただきます。

一、番（辻田実君）個条的に中實内いにて参りたいと思ひます。

まず、オ一点でございますけれども、農業並に農村の分解は考えられないということを用意しておりますが、先ほども私が申し上げたように、非常なる勢いで分解をしていく事実がございます。

特に年少労働者が従来の農業従事者よりも一五％から三〇％までの人になりが、昭和前期、男女を問わず減つてゐる。そうして若干女子に移つてゐるという傾向。そういう中にまきまゝで、才二次農業外の所得を中心として農業を営む、こういう不健全な農家が一口数パーセントに上つてきてゐる。この傾向は、三五年がこういうふうな状態でございまして、三六、三七の資料というものがございせんけれども、三六年、七年はもっと顕著に現れてゐるのではないかというふうに考へてゐるわけでございませうけれども、この傾向は、農業構造の改善実施に伴つて全面的に解消できる問題かどうか、その点についてもうサー、具体的にやう説明願ひたいと思つたわけでございませう。

・農産統計課長（伊藤幸太郎君）私の方からお答えいたします。

当初通告より賛成の要旨の点でございますが、今うな
結でございますと、現在う農村の現状がこうでよろうだと
いうことでも話を承りつたのでございます。

賛成の内容より農村の分解ということとは、農業構造
改善事業をやることによって農村分解が起ころうでは
ないかというように私拝聴したのでございます。そういう
邊りでございますので、やはり承願したいと思ひます。

いろいろ数字によつてお示しがございまして、確かに
そういう現象は、全国的な農業形態の上で現れ
れてゐることは、事実だと思ひます。そういう農村の
現況を救う意味で今度の農業構造改善事業
の実施がなされるのだというふうに私も考えております。
でありますので、いろいろ問題もございまして、
この事業を完全に効率的に実施することによりま

して、こゝのような現象を防ぐ、そうして将来の農村
振興をはめて参りたい。こゝのような気持ちでこゝ事業
を実施して参りたい。こゝのように考えております。

一、番(辻田実君)　その点でございますけれども答弁の
では明確にされなかつたわけでございますけれども、
農村が分解してゐるという事実を農業構造の改
善をするに當つて当初立案のときに市独自の農
業構造の実施母体となつて、館山市全域にわたつて
農業構造改善を実施していくということが説明
され、宣伝されたわけでございます。私もその点に
ついて、前市長が直接説明に参りまして、何とな
とでございます。

二回目　今年三月の一日でございます。

館山市農業改良普及事務所には、その説明を承

さくいきまうた。あうり関係々言がぬ席いたしまうた。
 そつときは、前々いったことは農林省の方針に従って
 そううてかえざるを得なくなってきた。そううて、一
 地域乃至二地域にわたつて重点的のところう構造
 改善を実施するということを説明さしきまうた。

こうようにわらうなければならなかつたという事実
 も、今日、構造改善を実施するに當つて一地域乃至
 二部落において構造改善を実施するといふことと
 なりさうと、熊山市全体う農業が分解してゐる
 面を柳井する一つう力になうかといふことについて
 心配するわけです。またやり方をひとたび誤まり
 ますと、一地域の農業構造の改善のため熊山市
 全体う九、一〇〇戸う農家に一う寄せがさしきまうて
農業構造う指定を受けるところう一、〇〇〇戸や二、〇〇〇

戸の農家が多すくなくなったところでもって、残りの九〇〇〇
残りの農家がさらにかく一た状態の中に陥れば、分解
というものは、さらにかく進む。このように考える。非
常に配してあるわけでございます。その点について
農村が分解しているということについてもう少し
納得のいく説明をお願いしたいわけでございます。
・農産統計課長(伊藤幸太郎君)オ一回う各部落を回
わりまわした際の説明の内容につきましても、大へん
申し分けございませんが、その当時、おりました
ので、わりません。この役目を引き受けまして、多少
勉強したのでございますが、いろいろ統一的な農業
構造改善事業をやるのだということは、おそらく
当初からなめつたものではなめろうかというふうに考
えられてございます。

農業構造改善事業と

いうものは、全地域にわたっての統花的事業でござい
ませんで、ある地域を中心にノーマーだ、いわゆる重点
的な施策ということに考えておるわけでございます。
そのような指導を私受けておるわけでございます。
でありますので、当初説明会當時にございまして、そ
うな話ば飯りにあつたといふノーマーでも現在の
進み方といふし、ましては、あくまでも統花的でなく、重
点的な大きな農業構造改善の事業ということに
進めておるわけでございます。

農村の分科の肉類、私まだちょっと片箕肉の要旨
ばかり聞きませんけれども、先日お申し上げましたように
そのようないわゆる社会情勢のもとにありまして、
今後、そのようなことをなすことの一つのきめ手と
して、今度の農業構造改善事業がございゐるうだ。

あくまでも今中に配う点のないように慎重に実施して
参りたい。めづうに私考えておるわけでございます。

一〇番(辻田実君)「法律の精神から参りますと、終花的な
面については、行わないというふうなことをおっしゃられてお
りますけれども、昭和三七年に制定されたところの「農
業基本法」の前段におきまして書いてあるのを読みます
と、「農業従事者の自由な意思と、創意工夫を尊重
し、つづ、農業の近代化と合理化をはかつて、農業
従事者が他の国民各層と均衡する健全で文化的
な出生を営むことができるようにすることは、農業
及び農業従事者の使命にたるるゆえんのもの」で
あるとともに、公営の福祉を念願する、わが国民の
責務に属するものである。」

この精神、また農業委員会法案にあるところの英

係条文には、農民の貧困は我々の国民の責務である。
このような方向に従ってやるということであります。

創意と工夫ということが明記されてゐるとともに、農林省
昭和三十七年五月二十五日の法律に基きまして農林事務
次官通達によりますところの農業構造改善事業
促進対策実施要綱というものを読みました。その中
の二項、農業構造改善事業計画の二の
計画の樹立に当たってという中におきまして、計画
は、市町村長が関係市民の創意と事業を実施
する、それ以外の主体の意思を取りまとめて樹立
するということが、はっきりと記されてゐるわけであ
ります。　　そういうことになりますと、農民一人一人が
このように自分構造を改善していきなさいという
要望を取りまとめて、それを市町村が行なつていく

いうことがうたわけておるのでございまして、そういう面では、純花的では云々ということではなく、重点的というのは、そういうような広い範囲でやるということも、狭いことでやるということも決定されると思います。

その点について、十分考慮して、これから運賃について、百万円、農業近代化資金を借りて、酪農を入りようとしても、農協に金を借りられないで困っておる。人がたくさんあることも知っておるのであります。借りようとしてもカントさへておりません。

そういうようなものを借りることができないということになったまゝですと、法律の精神にも反する。これについては、農業基本法、農業改善事業実施要綱、そういうものを十分考慮して、そういう人への農民の農業は、改善できるというようにぞ

ういう希望にそのなところへやっついていけば、決してこれ
が、重点的とか、統一的とかいう問題でなく、解決で
きううではないかと思ううでありますので、その点に
ついては、このようにお願い—ないと思ううであります。
次に移ります。

二番目う問題でありますが、残り融資金、他う金融
については、影響を与えないという答弁でございますが、
その中におきまして、私の数字と二千万位違いますすが、
これは、いいと思いますすが、それと同額を受益者負担と
いうことを申されております。この受益者負担は、
基盤整備、土地融資金とか、農業近代化融資金
を充てるといふことが、はっきりとうたわれております。
そうして、その中において、五千万近い金が農業近代
化資金に回らされることによつて、そういう今、私が申し

上げましたように、個々の農家が農業を近代化しよう
というときに、近代化の事業に対して、この構造改善を
実施することによって、五千万からの近代化資金がそちら
に流れることによって、そういう面については、影響を与えな
いのか、この点については、何か受益者が負担するから
ということでは片づけられないけれども七千万に及ぶと
ころの金はどうなるのか、系統資金は農協にある
のか、それについて個々の農家が牛を買いたいとか、
花をやりたいとかいって五千万、百万を借りにいつたときに
農業構造改善の資金に使ったのではないというふうな
ことをいわないというところが、保障できるかどうか、私
は質問したいわけでございます。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 大だいさうや質問でござ
います。今度の農業構造改善事業、これは、市

承知と思ひますけれども、早くまでも新しい一つの事業として国が補助金及び融資のウケを別に予算化してゐるわけでございます。でありますので、ここに示してしました五千万近い受益者負担分の融資の関係によつて他の近代化資金等がそのためになくなる。すなわちなるといふようなことは、おそらくあり得ない。めように私も聞いておりますし、信じております。

一番（辻田実君）その点につきましては、そういうことがあつて、そこで私が申し上げても、仕方がありませんので今う課長さんうや答弁をそのまゝ、よともく受けとめて将来、近代化資金を借りにいったときに、そういうようなことで断つらぬことがないことを、念じながら打ち切りたいと思ひます。

次に農業所得は、全般的に実施すれば上るということ
とを簡単に申さねておりますけれども、さっき申した
ように、重点的に一地域か二地域、そういうことであれば、
受益農家というのは、約二〇〇カ至、五〇〇位だと思います。
鎌倉市には、九、〇〇〇戸もあります。

本当にその面では、九、〇〇〇戸の農家が対象になって基
盤整備、主産地形成が行われても、一割でございします。
その面を心配しております。そういうことになりそうです。
他の八、〇〇〇人の農家の人たちの所得は、農業構造
をやることによって上るかどうかということですね。

農業構造改善事業が主として、基盤整備の面については
それから、主産地形成とかそういう面、畜産酪農の
育成とか、そういう面については、ほとんど指導していただく
いいし、そういう面の融資ということは制限されておると

いうことについて、農村が分解して農業の手が女に
わたってゐるという状態の中で果して所得を全般的に
的に上げらるゝめどうかということを考える。むしろ
逆になることで悲観してゐます。その点は多ク
重複しますが、お伺いしたいわけでございます。

・農産統計課長（伊藤幸太郎君）今度う事業が先ほど
申し上げましたように、いりゆる全地域になつてう
事業実施ということとは不可能でございます。と申
してすうは、よくまでもこの事業は、国の補助事業
でございます。一応ワフが割当がきてあります。

でありますので、この割当の範囲内におきまして、
いりゆる重点的な、もっと、簡単に申しますと、今度
の場合は国がある地域にパイロット地域を作つて
実施してゐると同様に市町村にもさしてても、一地域

昔をパイロット、モデル地区としての事業実施という面が非常に多いわけでございます。かように私考えても、わけでございます。従いまして、今度実施されるという事業、受益者の所得倍増とかいう面はよくなるけれども、他はどうなるのだというや、質問であったわけでございますが、遺憾ながら、よくまでもワクウ中で示さしておる事業でありますので、きければ、全市地域についても、そういうものもやりたいという気持は十分もっておるわけでございます。今回の場合、今申し上げたような事業体による実施でございますので、よくまでも、重点的な施策を一二分に打ち出しまして、それにならった次の他の農業経営の面については、今後の課題として、農政の大きな課題として考え

で参りたい。こういうふうに考えております。

一〇番(辻田美君) 最後になりました。すけれども、その点については、関係委員会において十分審議して参りたいと思いますので打ち切ります。が、館山市におきまるところの農業構造改善に伴って、一つの目標があるのか、どうなのか。この点について、千葉県におきましては、このように躍進するというパンフレットまで出して具体的に昭和六十年度までに農業はどういうふうにかわるかということをも明示してあります。が、館山市においては、これから五年先、一〇年先には、今、農家所得がどう位上っている。農家はどのような農業を育成していくのか。という目標があるのか。この点についてお伺いたいわけがござります。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君)再三、申し上げましたよ

うに、今度の大きな事業を契機といたしまして、先
ほど申し上げましたように実施される地域の
相当出るわけでございます。でありますので、モデル
的に作らねばならぬ実施地域に従いますところの、そ
のほか農家の方たちの経営の合理化、農村全
般の問題、そういった問題をこれを契機として私ど
も十分考えて五年乃至一〇年間の、いろいろございまし
ょうけれども、それらの方針の樹立を考えて参りたい
というふうに私も今うところ考えております。

はつきり申し上げますと、今うところ、広報や、或いは
雑誌に掲げていく計画はございませぬ。しかし、
本報、今、申し上げたように今度の大きな事業を
契機として、そういった問題についても十分考えてやる

参りたいというふうに考えております。

一、番(辻田実君) 今つや説明ですと、ないようでござ
います。が、なになると、農業基本法、その他、実施
要綱については、そういう長期約な計画に基いて、
実施していくということになっておりますので、そういう
面から多少疑問がある。

私はそういう面であえて、農業構造改善事業を行
わねばならないというところは申し上げま
す。しかし、一億三千万という膨大な事業、そういう
農業は、産業の中における地位は、非常に低い。
簡単にそういう計画がないままにやっていくというこ
とは、我々納得できない。こう点については、やはり早
急に経済委員会、その他、委員会を設けよう、ま
ちんと方向を定めて行なってもらいたい。さもないと

この膨大な金が死金になるという危険を我々は憂える。
さらに農業構造改善事業の推進主体は、市町村で
ございませう。決して協議会とか、そういう外郭団体
では、ございませう。市町村が構造改善の推進協議
会に計画を提案し、諮問して行うということがはつき
りしてまいります。従いまして、この事業の推進に
当って市が明確に立てた上に立って関係協議会
その他において十分に納得のいくような方向を定め
てもらいたいわけでございます。

現在でございますと、どうも市当局、市独自にやろうとい
う面が見られない。そういう面におきましては、勿論非
常にこの事業はそういう形の中でやらねばという懸
念が非常に大きいわけでございますけれども、その
点については、どうお考えになりますか。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) だいたいのお話と
あり、これはあくまでも、市町村長が責任においてな
さるわけでございます。

今、申し上げたように農業構造改善協議会、これは、
あくまでも市長が諮問機関として、この事業につ
いての全般の諮問機関として置かれるわけであ
ります。責任はあくまでも市町村長であ
ります。つまり、一か一なから、単に市長の責任ではな
い、むしろ、いかに、この仕事をして参り
ます以上、やはり大きな分野におけるいろいろな
方たちの意見、或いは関係当局の指導、そういったこと
が、非常に大切でございます。で、協議会、市と合
体として、同じ気持ちでこの仕事を研究して参りたい
というふうな気持ちで現在進めております。

一、番(辻田実君)私は最後にこの農業構造改善事業
が協議会、その他において決定—よろなので、議会にお
いて承認—ていねいになりたいというふうな形が取らな
いようになりていただきたいというふうに思ふわけござい
ます。従いまして、そういう面におきまして常任委員
会とか、さらに関係機関の中において、議会も十分
な連絡を取って、さつき申—上げましたような計画実
施に当たつての具体的な意思疎通という点につい
て話し合ひまし、そういった委員会を運用—ていく意思
があるかどうか、その点を伺ひます。その点の件回答
を得らなければすべての問題は、その委員会等にお
いて具体的に進めていただく方が効果的ではないかと
思ひますので、その点についてはいかがでしょうか。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君)最後、決定につきます。

しては、先ほども市長からも市説明申し上げましたように、目下、協議会に何カ所かの候補地につきまゝの諮問をお願いするわけでございます。

その答申を待ちまゝで、なお、果、或いは、同う指導助言を得まゝで決定して参る段階にもって参りたい。その場合にこれは、あとあとの問題で、今申し上げることは、どうかと思ひますが、当然大きな問題でございますので、議会関係におきまして、何れいふ機会に一応、市相談を以て参りたい。そういうふうに私としては、考へております。

・一々審(辻田実登)その点について、議会、常任委員会に付いて審議した上で決定していただくまいと、いうことの市回答があつたようでございますので、いろいろ町長についてお伺いいたし、こともありますが、

これをもって、打ち切りたいと思います。どうもありがと
うございまして。

議長(黒川佐太郎君)一四番議員、志村信作君、登壇願ひ
ます。

(一四番議員、志村信作君、登壇) (拍手)

一四番(志村信作君)私、質問は、まずオーストリアの
一環として、工港、区設定につき、どういふ構想を
お持ちか、という質問でございます。

館山市の人口を増加させる方法といたしましては、館山
市を、包囲いたします。周辺の都市を、合併することが
もっとも必然であり、行われてゐることは、他の町村を更
さうしても明らなでございします。

二つ目は、工場を誘致するということとございします。が、
工場を誘致いたしますと、人口を食い止めることがで

きますと同時に、需要に応じまして他の地方からの人口の導入が得らるからであります。もう一つは、この周辺の都市を合併することと工場を誘致することと、この二つを権衡すること、この三つが大体人口を増加する道であらうと思ひます。そうして人口の増加は、とりもなみさず、釜山市が繁栄する原動力であると思ひ上げることには、当然なことであると存じます。

そこで釜山市は臨港新都市であります。

昔から港灣とともに栄えてきた都市であるという観光からいたしまして工場誘致に努力するとともに港灣を整備しましてその利用度を高め現在ありますところの釜山商港兼漁港、船形漁港のほかにさらに工港をを設置して大型船の横づけ荷積み、荷おろしの岸壁を設置し、材料の搬入に備えるべき

だと考える次第でございます。

工場誘致につきましても、受け入れ態勢に万全を期す
べきでありまして、そうすることが、産業発展の推進力
であり、館山市を繁栄に導ぶことになると思われ
ます。

なお、それに付随しまして、館山駅を中央駅とする臨港
鉄道の敷設も考えるのであります。

まず、館山市繁栄の一環として、工港区設定の構想
の有無について質問いたします。

二番目は農業構造改善事業と観光農業の関連
性について質問いたします。

農業構造改善事業の本質については、先ほど来、
質疑応答があり、大体済んでおると思われます。

当市は、今回農業構造改善事業の指定地となりま

一に、このときにより農業構造改善事業の
あり方について質問するものであります。

館山市は観光都市であるから、農業構造改善事業
を計画するに当りましては、その造成計画を観光の
一翼を持つべき方向にもっていくように計画すべきだ
と考えます。

そうして農家収入をいっそう多く上げるべきだと
考えるものであります。 あつたまに、農業構造改

善事業を観光農業とするよう関連させること
が、大いにおずかしい問題ではないと考えられます。

農業構造改善事業の対象となる生産物は、大体に
おきまして先ほどもお話がございましたが、果樹、花卉、
酪農などでありますから、広大なる果樹園、造成例
えば、びり園、みかん園、桃園、柿園、梅園等を総合

約に取り入る一単位七、八町歩乃至十町歩位の果樹
が造成され、これが宣伝に努められ、観光客にゆだね
物、もぎ取り等として販売する。駐車場、休憩所な
ども施設すればよいと思います。大量生産に力を入
れしきうで、余剰生産品は出荷輸送や、かん詰め
なども加工に回し処理すればよいと考えます。

こゝに努かりて観光農業を经营し、農家経済を豊
かにし、市う観光政策に合致せしめるべきだと考え
る次第であります。農業構造改善事業の指定に
当りまして市う所見を問う次第でございます。

(市長、本間譲君登壇)

。市長(本間譲君) 志村議員さんの市實町に對し
お答え申し上げます。

初めの問題は、館山市繁栄の一環として工港區の設

定につき、いかなる構想ありや、こういうことでございませうが、私もよく知りませんで、いろいろ研究してまいりて大体わかつてゐるんですが、つまり釧路市の漁港のほか工業用の工港設置の意思があるかどうか、こういうことでございませう。これに工業によつて発展してゐる各地の港湾は港湾法によつて指定され、工事を実施し、整備されてゐるものであります。片承知の通り、この港湾法で重要な港湾とは、国の利害と関係する港湾であります。

重要港湾で今までで釧路港は商港に指定されておるわけでございます。片承知の工業港とは、必要あれば港湾管理者に指定してもらえばよいのであります。港湾法に示されておるよう一般の機械とか鉱石とか大量のばら積みを通例と

する場合であつて、当館山市の港湾は、その必要性が今のところないやでございします。

そういうわけでございしますから、今直ちに設定するという意思はございしません。

館山港については、去る昭和二七年より工事を起して整備に努め、大むね計画通りに完成してあります。地方港湾として指定を受けて一四年を経過したにもかかわらず、工業部庁の発展は意圖どとくならず、まことに遺憾に考ふるやでございします。これがおもな原因は水資源の不足と電力の不足ということにございまして、工業が発展しなかつたわけにございします。ただ今、水資源の調査をしようとして大体人口十万人位の給水が可能だ、こういうことがわかつてきておるわけにございまして、それから工業誘致、

観光の施設もいろいろ仕事もいんどんできること
 ます。そういうふうになつてくれば、またその必要がある
 と思います。現在、場合です。そういう必要がある
 ないかと考えてあります。

次に農業構造改善事業と観光農業との関連に
 ついて、こういう質問でございしますが、なかなかむずか
 しいわけでございます。農業構造改善事業は現
 在の経営方針をあくまでも改めて所得の向上という
 ことであります。今後大いに期待されるわけ
 でございます。

事業の実施につきましても十分考慮して参りた
 いというふうに考えております。

。一四番（志村信作君）ただ今、中継説明によりま
 大体、了いたしますが、なお、これは大へん大きな町

題ばかりでございまして、今、全然然、こういう考えが
ないということでありました。将来に備えて、今から、
こういう構想も考えらへておられることが、大へん結構
だと私は思います。

二番目、観光農業ということも観光とて立ってい
る。熊山市におきましては、こういう方面も観光に結
びつけまして、市長さんが、農家の収入を上げる方
向まというふうなお話でございまして、これが根本
でございします。ただ出荷するばかりで、ひく地えで
も相当売れる。また地えからうみやげものになる
というふうなことで、そういう方向にもっていてもらう。
そうすることによって、観光客の増加もある程度はか
いめるのではないかと。一石二鳥の考えだと存じます。
で、何か、この点に、留意願い、たいと思ひます。

・議長(黒川佐太郎君)午前中う会議はこゝにて休憩
いたします。

午前 ナ一時四十九分 休憩
午後 一時三十七分 再開

・議長(黒川佐太郎君)午後の出席議員数三五名、
休憩前に引き続き会議を開きます。

日程才四乃至才一入を一括議題とし、こゝより、各
議案の説明を求めたいと思います。

こゝに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)此異議なしと認めます。よつて
こゝに決まりました。

(書記胡説)

議案オ六ニ号

館山市取員定数条例の一部を改正す

る条例の制定について

・秘書課長(小倉澄男君) 議案オ六ニ号につきまゝで、市説
明申し上げます。

こゝは、市取員の定数条例の一部を改正すまゝで
ございまして、オ四の選挙管理委員会事務局の
書記が地方自治法のオ一九一条の全文改正により
まゝで、先般までは、「選挙管理委員会に書記を
置く。」ということになっておりまして、ところが、こゝたび、
「書記長並びに書記、その他取員を置く。」という
ふうに改正されて、それに合うべくここに書
記長一名、書記二名を置くという定数条例の改
正を提案した次第でございす。

なお、改つ消防本部消防署の取員でございすが、こゝは、消防署の取員四二名という定数条例を、このたび、消防署が新たにできまゝにつまゝて、今までは、市、市長事務部局の取員が消防署の取員を兼務してまゝした。が、この際、新たに本部取員を三名、予報係を一名、その他に給油、現在予算に計上いたしてあります。給油係を一名、並に整備工場の方の技師一名、用一人、それから、消防取員の人員配置につきまゝで種々検討いたしてあります。が、現在までに消防取員の人員配置につきまゝでは、消防車一台につきまゝで理想的な配置は七人ださうでございします。

しかし、現在は四人でやっております。かゝつてから増員したいと研究してあります。だが、この際、四名、本部に

勤務する取員につきまゝして四名の増員をここにお願い
いたしまし、計四名に一名の増、五名、これは
消防本部と消防取員を合わせました件数の増員
を提案した次でございす。よろしくお願いいたし
ます。

・議長(黒川佐太郎君) 議案才六三号、六四号、六五号をも
朗読させます。

(書記朗読)

議案才六三号

館山市消防本部条例の一部を改正
する条例の制定について、

議案才六四号

館山市消防署条例の一部を改正する
条例の制定について、

議案才六五号

館山市消防団条例の一部を改正する
条例の制定について、

消防署長(岩田実君)議案才六三号、六四号について市
説明申し上げます。

市承知のようにな本年の三月北条一七六番地にあり
ヨートな消防庁舎が神明町旧市役所跡北条一〇
八七番地の一に移転いたしヨートなで、位置の変更を
いたわけでございます。

なお、昭和三八年四月一五日消防法並びに消防組織
法の一部改正がございヨート、これに伴いまして、法
改正に合致するように所管の条項を追加いたした
わけでございます。

それから自動車整備工場、市が給油取扱所の設
置を現在建設途中でございヨートなので、これに伴う
所要の人員の増加、並びにこれが運営について所
管条項を加えたわけでございます。

それから、議案才六五号について申説明申し上げます。
これは、消防団の編成の改正案でございますが、昭和三
十六年八月一日消防庁告示、告示才二号をもちまして
消防力の基準が告示さいます。この基準により
ますと、市街地より相当離れた遠隔地の消防力をも
っと強化せよというように示されておるわけでござい
ます。それに伴います。今まで市内に二三個分団ござ
います。この二三個分団は自動車、車所、或いは手
びきガソリン一両につき一台、それぞ、分団と称
しておったのでございしますが、これは、自動車一
台乃至三台、ガソリンポンプ、或いは手びきガ
ソリンポンプ、小型ポンプ、小形ポンプに
なりまして、三台乃至六台位をもって一分団と
称せよ。自動車一台、或いはガソリンポンプ一
両については、部と称せよというふうに示さ
れています。たために今まで二、三個

分団とごいまいた分団を九分団といたしまして、なほ
 先ほど申し上げまいた遠隔地の消防力強化のために、
 九重地区におきましては、今まで自警団で守っており
 ました三地区を消防団に吸収いたしましたして、三部を
 一個分団といたします。

また豊房地区におきまして、同じく従来は自警
 団三つをそれぞれ三部といたしまして、計九分団、
 部でございますと、二九部に改正したわけでございます
 ただ、人員の点におきましては、現在の条例によりま
 すと、定員五三七名以内というふうにありますものと
 を五〇〇名以内の改正いたしました。

これは、現在の消防情勢から、非常に団員の確保
 が困難であるという点と、小教精鋭主義という二
 つの目的から、団員の定数が変更になったわけござ

います。

なお、そのほか、今まで団員の階級といえまして、本部長、それから分団の中に副分団長という階級があったのでございますが、これは、同じく消防団の階級改正によりまして、今度は、本部長、副分団長、この階級は認めないということになったために、変更したわけでございます。なお、時代に合わせまして、団員の報酬も今まで少ないのでございまして、ベースアップしたわけでございまして、多少の値上げということになったのでございます。

以上、説明申し上げました。

・議長(黒川佐太郎君) 議案才六七号を朗読させます。

(書記朗読)

議案才六七号

館山市市税条例の一部を改正する

条例の制定について。

。税務第一課長(高木哲三君)議案第六七号について、説明申
し上げます。

この改正は、昨年税制調査会より三八年度より地方税
に対する答申がございまして、たばこ消費税、電気が
ス税う負担の軽減をはかるために電気ガス税を一
下げ、そして、その財源措置といしまして、たばこ消費
税を一四%引き上げ、百分の十三・四とする。その改正
でございします。

この改正によりまして、たばこ消費税は、約二十万の
増収にわります。現在るところ、電気ガス税は十
万の減となつて二十万程度増収ということになつて
おります。

にございます。数字は一カ月でございします。

。議長(黒川佐太郎君)議案第六八号並びに六九号を議

読いたさせます。

(書記朗読)

議案オ六八号

館山市防災会議条例の制定について。

議案オ六九号

館山市災害対策本部条例の制定について。

・総務課長(山口実君)

議案オ六八号及び六九号について説

明申し上げます。

提案理由について申し上げます。

昭和三十七年七月一日に災害対策基本法なるものが
施行されました。その災害対策基本法によりまして
市町村に準則が参ったので、この二つの条例は、そ
の準則に基いて提案したものであります。

災害対策基本法の概要を申し上げます。

わが国は、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波
等の自然現象等による災害だけでなく、世界に例

を見ない災害常襲国でございます。年々尊い人命を取られ、国民、公衆施設に莫大の損害を与え、わが国における福祉増進、及び経済発展に重大な障害となっております。

このような状況にありながら、従来は災害に対する国の行政施策は各省、庁に分散いたしまして、災害に対する総合的な行政が欠けておったのでございます。そのため災害が起きた場合に一貫した計画がなく、災害防止にまことに困難な実情にあったのでございます。こゝから実情に対して、総合的な災害対策の計画が方々から要望をされたのでございます。

災害対策基本法は、この要望にこたえ、災害予防災害応急対策、災害復旧、災害に関する金融

措置等に関しまして、従来の不足しておる点を補い、
さらに防災における国、都道府県、市町村、公営機
関、そしてその責任と役割を明らかにいたしまして
国及び地方を通ずる一貫した総合的な防災体系
を確立いたしまして、防災行政に遺憾なきやうに期
することばこの趣旨でございます。

次にオ一条について、説明申し上げます。

オ一条目的でございますが、ここにございます災害対策
基本法、昭和三六年法律オ二二三号オ一六条、オ
五項の規定でございます。その内容を申し上げます。
「市町村に、当該市町村の地域に係る地域防災
計画の作成及びその実施の推進のため、市町村
防災会議を置く」とあります。さらに「市町
村防災会議の組織及び所掌事務は、都道府県

防災会議の組織及び所掌事務の例に準じて当該市町村の条例で定める」とあるのであります。この一六条の趣旨によりまして、ここに災害対策の会議の目的を示したうでございします。

次にオ二条の防災会議の所掌事務でございしますが、「館山市地域防災計画を作成し、その実施を推進すること。」

次は、「情報の収集してございします。三号に「法律又はこれに基づく政令により、その権限に属する事務」とございします。その内容を申し上げますと、防災会議というものは、国に中央防災会議、地方に県防災会議、市町村に市防災会議、こういう段階があるうでございします。ここに示した事務でございします。中央防災会議で行なう観、勧告の対象となること、次に市

町村防災会議の行なう智勸告の対象となること。

そういうものは、おもむく仕事でございます。

次にオ三条、防災会議の役員の組織でございますが、これは、条例準則に参ったそのまゝを本市の状況に合せて作ったものでございます。

オ四条、防災会議に専門委員を置くというものでございます。

オ五条、これは、防災会議における部会を設置でございます。

これは、防災会議を完全の実施機関とするため、部会でございます。

次にオ六、災害対策本部について申し上げます。この目的でございますが、災害対策基本法オ二三条六項の規定でございますので、一応朗読いたします。

す。

「都道府県、又は市町村の地域について災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合において、防災の推進を図るため、必要がある」と認めるときは、都道府県知事、又は市町村長は、都道府県地域防災計画又は、市町村地域防災計画の定めるところにより、地方防災会議の意見を聞いて、災害対策本部を設置することができる」といふ六項におきこめて、都道府県又は市町村の条例によつて対策本部を設ける。こういうふうの規定されてゐるやうでございす。こゝが目的でございす。

オ二条、組織でございす。災害対策本部長は、法律によりまして、市長がなれることになつております。

オ三項「災害対策本部長の命を受け」と云々とあり

ますが、災害対策本部の事務のおもひものを申し上げますと、これは市として実施に关することでございます。防災会議で決定された防災計画の組織、こういうものを整備することになるわけでございます。さらに基く防災訓練などをすることになるわけでございます。

そういうことがおもひことでございます。

あとは、準則で参つたものを、そうしますに、ここにかかげたものでございます。さうくや審議願います。

議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午後 二時 一九分 休憩

午後 二時 二五分 再開

議長（黒川佐太郎君）休憩前に引き続き本議を開きます。
議案オセロ号の朗読をいたします。

（書記朗読）

議案オセロ号 鑑山市保育所条例の一部を改正する
条例の制定について

福祉事務所長（鶴沢實寛君）議案オセロ号について中
説明申し上げます。船形保育園の園児の定員
が従来、六〇名でありましたが、今回これを一〇〇名に
改めようというものでございます。これは、船形の
東京都の児童学園の保育園が三カ年計画
で廃園になり、その関係で昨年度に船形
保育園を新設いたしました。今年三月三十一日
をもちきりて、東京都の保育園が全面廃止になり
まいたために、さらに園児数がふえたために今回

一〇〇名う定員に改正しようというものでございます。
実際には果う了解を得て四月一日から増員して
ございますが、今回条例の改正をお願いしようとい
うものでございます。

・議長(黒川佐太郎君)議案オ七一号を朗読いたさせます。
(書記朗読)

議案オ七一号 昭和三八年度館山市公営住宅建設
工事請負契約締結について、

・建設課長(新井重助君)議案オ七一号について説明申し
上げます。

市営住宅建設事業は、昭和三五年より引き続きや
っておりまして、今年度も大賀地区に二戸建設す
る予定でございます。

この工事は、一戸当り三一平方メートルの家屋でござ

ごいさうで、約九坪五合で、今年度、こゝを建てまして八三戸とひきあうでございす。

去る六月の一二日に宇山工業株式会社、計工務店、高橋工務店、関工務店、石井工務店、渡辺建設株式会社、新井建設株式会社、館山工業株式会社、山崎工務店、富士土建株式会社、大千葉建設株式会社、渡辺工務店、以上一二社を呼びまして指名競争入れいたしましたところ八百六十ニ万三千円をもちまして宇山工業が落れいたしましたので、同社と契約いたしたいと考えまして今回提案いたしました次方でございす。

議長(里の佐太郎君)議案オ七二号を朗読いたさせます。
(書記朗読)

議案オ七二号 寄付の収納について

・教育長（工藤和平君）七二号の提案理由を申し上げます。
館山高等学校のP・J・Aから、過般木造からぶき平
屋建一棟の寄附の申し出がございまして、二十六坪で
ございす。一昨日の二二日にこの贈呈式が行なわ
れたのでございす。や、案内のようにならぬ、生
徒が年々多くなり、すすとも、取員の数も多くなる
わけでもございまして、現在五七名の取員と擁一とあり、
従いまして、定時制の教員の室でございすけれども、
五時の始業前に取員が来るわけでもございす。
昼間の取員とダブルする時間があるわけでも、夜間
課程の取員の室がどうでも必要であるということでも
ございす。で、左側の室を充てたいというので、
今度のものも教室に使用したいというのでござい
す。これを収容することにより、教員側から

いけますと、能率の向上、生徒側からは、学習効果の向上ということになりますで、これを受け入れたいと思っております。

・議長(黒川佐太郎君)議案オセ三号及び七四号を朗読いたします。

(書記朗読)

議案オセ三号

館山高等学校工業課程の備品購入契約の締結について

議案オセ四号

館山高等学校工業課程の備品購入契約の締結について

・庶務課長(千場伊右エ門君)議案オセ三号、七四号一括して説明申し上げます。

館山高校の工業課程設備費といえし、一、七百二十万円を当初予算に計上してあります。まず、購入

計画に基きまして、化学電気科、九十九万五千四百二十円、
三回品目でございます。

化学工業科の方は百二十七万五千五百円、二回品目を
次の四業者を指定いたしまして、千葉県教材株式
会社、株式会社木村電気工業所、沖電気工業株
式会社、福井電気株式会社、電気教材の品目につ
いては、文部省より指導要領、電気科編に示されて
おりまして、また化学工業科教材につきましても、全
国工業高校校長会議で協議して品目を決定されて
もっております。

それ以外、県立千葉工業高校、千葉工業高校にから
ず整備するようという学校当局に指示されておるよう
であります。

見積り合せる結果は、電気科の方は七十九万七千

百二十円で株式会社木村電気工業所、化学工業科の方は、百五万七千五百円、千葉県教材株式会社は最低価格であります。さうしてこの両社と隨意に契約をしたいと思います。さうして審議のほどを願います。

・議長（黒川佐太郎君）日程オ一ニを上程いたします。議事日程についておわかりいたします。

たゞいま上程とついであります。日程オ一ニは、説明に引き続き、幹議いたしたいと思います。

これにより、幹議でございます。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川佐太郎君）此異議なしと認めます。

よってさう決めます。

（書記朗読）

議案オ七五号

昭和三八年度六月に支給する期末手当
の特例に關する条例の制定について、

議案オ六六号

非常勤の特例取、取員に係る報酬
及び費用弁償に關する条例の一部を
改正する条例の制定について

・秘書課長(小倉澄男君)議案オ七五号につきコーマでや
明申し上げます。 本案はオ一条に起載し、ありま

す通りに館山市の三役、議会の議長、副議長、
及び議員並びに一般取員の昭和三八年度六月
一五日に支給されますところの期末手当に關する特
に定める条例のために本案を提案した次第でございます。
これは、先般来、取員組合より期末手当の増額、条例
におきましては、百分の百、並びに勤勉手当が百分の
三十というものを条例化してございすが、特

に、他市の状況を勘案し、連絡の要請をいたし
 しては、二三割を支給し、参りし、本市の財
 政事情等を勘案いたし、その額をもつ
 ては、とてもできないといふことにつぎ、いろいろ相
 談をいたし、結果、本特例に提案いたし、す
 らに期末手当が百六十、それに勤勉手当が三十
 つき、ついで、総額におき、つぎ、百九十の手当
 をここに決定すべく、本条例を提案いたし、次で
 ございます。

オ二条に一般取員の期末手当の特例をうけてご
 ざいます。

オ三条には、議会の議員の期末手当の特例でござ
 います。

オ四条は、市長、助役、収入役の期末手当は、一般取員

の給与条例に準拠するという規定がございまして、
オ四条をうたいまして、オ二条の規定と同じ期末
手当を支給するやうだというように改正するなどの特別
でございまして。

次にオ六六号議案でございしますが、これは、先般入
事院の観勧告によりまして、一般の給与ベースの
改定が勧告されたのでございしますが、熊山市におき
ましても去る三月の定例議会に提案いたしましたし
て、片賛同を得たのでございしますが、その際に非常
勤の特別取については、議会の議員だけは、私員と
同列に扱うのだということで、附則に特別をうたいま
して支給したうでございしますが、その後、種々執行
部の方において検討いたしましての結果、やはり
議会議員だけに一月一日にさめ上るということは

適當でないという結論に達してしまし、せめて地方自治法に規定されておりました行政委員、即ち、非常勤の特別取組委員にいわゆる報酬及び費用弁償にいわゆる条例の中にあります才一号表というのでございしますが、月額をもつて支給してあります行政委員会の委員の方たちにせめて同一に一ヶ月一日にさか上るべきではないかということとを執行部の方で考えまして、ここに本議案に提案いたしましてさか上つて支給いたしたく提案した次第でございます。よろしく審議うほどをお願いいたします。

議長（黒川佐太郎君）議案才七五号、議案才六六号、原案通り可決いたしますことにやう異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）やう異議なしと認めます。よって所案

は、原案通り決定いたしました。

議案オ七六号を上程いたします。

(書記朗読)

議案オ七六号

昭和三八年年度館山市歳入歳出追加

更正予算

・秘書課長(小倉澄男君) 歳出の方から説明いたします。
給与に关しての追加更正予算について、市説明申し上げ
ます。

歳出の中に吏員給与並びに給料から更正いたしまして
て諸手当の中に追加更正というふうな方法が市
役所費、教育費、社会教育費、保健衛生費
産業経済費に追加更正されておりますが、その
おもな理由は、こゝにびねて市の方針といたしまし
て昭和三二年に高令取員の勧奨退職をやつたので

ございます。その後、やっております。それで、たにめ、取
買の構成がアンバランスになつてきたために、この際、
高令者に対して、勸奨をして、いわゆる新陳代謝を促
して、人事の刷新を、たいというふうなことで、市長の
決意を、いたさきして、五月三十一日付をもちまして、
倉山市の取買の中で、五五ヤ以上の方に、退職を、勸奨
いたさう。

その概略を、説明いたします。まず、方針といは
し、五五ヤを限度といはし、して、退職を、勸奨
する。で、あるけれども、あくまでも五五ヤから、五七ヤで
は、一応、勸奨する。で、五八ヤ以上の方に、は
なるべく、市の方針に、よって、勸奨を、受諾して、いたさ
ない。というふうな方針で、勸奨を実施した。次でござ
います。

そうして、勸奨いたしましうたところが、五八才以上の方で、一三名、こいは、全員受諾をしまいただきまうた。

五五才から、五七才までの間の方が三名、こいは、自発的にこう際、市の方針にそつて退取しようじやないかというこゝとで受諾していただきまうた。

一般市長事務局だけでなく、市長事務局三三名、教育委員会が二名、消防本部が一、計一六名の退取に退取を勸奨いたした結果、自発的にこゝを受諾いたしまいただいた次才でございます。それに関しまし、今後、鑑みずは、五五才になれば、勸奨をすまうだ。しかし、五八才以上からその方針にうつつていただきたい。それ、満年令の発生一たときに、その方針を打ち出す。

その場合において、退取を受諾した方は、退取手

当組合の三条、四条、五条、普通退取、長期勤続
の退取、整理退取、三つの異なった種類に退取手当
の支給方法があるが、こゝにのみつきまゝして
才四条を適用する。

それから、特に永い勤務年数の方は、才五条を適用に
する。よくさでも、退取手当組合によります条例を
適用するであつて、一かしむば、現在、国家公務員が
やはり命令着う整理といふことに観点を置きまゝして
特に昭和三二年でございす、法律によりまゝして
五〇才以上で一〇年以上、勤続した者がやめる場合に
は、最高の手当を支給するのだといふ方針で思案
を考へてありまゝです。本市におきまゝでも、この特例
を生かしまして、退取手当組合からは、才四条、二番
目に有利な方法で支給されるものもあるかもしれま

せんが、釧路市は、最高の方法を取る。ーかし、よくまでも
一ヶ月、という線を引きまゝで、国家公務員の特例を適用
するといふような方針を立てまゝで、今後、勸奨退職
を実施していただきたいといふ考えでございます。

なお、本年については、勸奨退職が早急といひますが、
三月下旬に、この方針を確定いたしまして、対象者に
給ふような次第でございます。本年に限つては、月
給う七カ月分、この七カ月分につきましては、いろいろ
非常に細かい内訳でございますが、まず、五月の給料
は、給料として差し上げる。それから、決済をいたさ
まゝのところの期末手当一九割、この三カ月にあつ
た四カ月分の給料を差し上げて七カ月分、今回に限
り、勸奨を受けた方に差し上げるといふような二段
論法で参りまゐつた。今後は、七カ月分、というこ

支給しないといふことは、今後においては、市でこういう
 ように毎年定期的に勸奨を以ていく。一りぞいて
 いたゞくように申し上げるといふことになりそうです。
 今後大体五五~~五~~位になり、五八~~五~~位になりますと、
 市の内規として我々はやめていかなくてはいいけな
 いといふことを自覚してあげれば、取算の生活設計も
 それを考えた上の生活設計がでるうではないか。
 といふことによりまして、今後は七カ月分という特例
 はやらないのだ。今後は才一考ういりゆる国家公
 務員一ヶ月以上者については、五五~~五~~者につ
 ついては、五条を適用する。それ以外の者につ
 ては、退職手当組合による給与によつて支給する。
 そういふうな方針によりまして、計算いたさ
 いたために、その差額というものが、退職手当~~給~~合

から支給されない差額というものが、ここに出てきたうで
ございすが、永年市に勤務していただいたものであり
から、この差額を何ともし支給して上げようというこ
とで、報償費に月給の四ヵ月分の合計と国家公
務員の方を適用いたしました五条とそれから、四
条との差額を繰計いたしましたもう一つ合計額三百
七十九万四千三百七十六円ということでございますが、これ
を、今申し上げよう追加予算の中に各費目別に
割りこめて支出計上したものでございます。

なお、補足的に説明申し上げますと、このたびの
勧奨を受諾された方々が一六人の月給を計算
いたして見ましたところ、大体、今年度におきま
して、九百万円、計上してございします。それに対し
して七ヵ月分の特別の報償費などを差し引きまし

でもまだ人件費が残るという目安がつきました。た
めに勸奨退取に踏み切ったわけでございします。
そうために三百七十七万四千円というものを現在、既
存の人件費の中から更正さしていただきたりして報
償費の方に追加計上さしていただいた次第でござい
ます。

なお、その他、ここには、多少人事異動によりまして
消防署に市から高給者がいたり、そういうふうな
関係から、多少の吏員給、給料、諸手当に異動
があったり、追加更正もあるわけでございます。
よろしくや審議をお願いいたします。

・建設課長(新井重助君)四款の土木費について、説
明申し上げます。

今回の長雨によりまして、相当道路が痛んで参って

おります。

その中で六月五日のオニ号台風により、道路の決壊がございました。その他橋梁の決壊がございましたので、橋梁は腰越の新橋、現在不通になっておりますので、この復旧と道路の決壊は、船形の海岸でございます。この二カ所の復旧に五十万円追加をお願いする次第でございます。

路面の復旧につきましてはやっておりますが、規定の予算の範囲内で足りないでございますので、ここに四十五万円の原材料費をお願いいたしております。次に市営住宅建設費でございますが、先ほどや説明申し上げました請負費が確定いたしましたので、その中に工事請負費に若干の余裕がございましたのと、今年度より建築基本額が上りました。これは、

建設者の補助事業に対する基本額でございますが、昨年度より基本額が上りまいらうで、歳入で七十九万四千円ふえたりでございます。

それに伴います事務費でございますが、事務費は当初二十五万円を計上してございまいらうで、基本額の三・六％以上事務費を計上しろということになっておりますので、当初より今回五万追加いたしました。吏員給、その他に充てたいと考えましてここに追加更正する次第でございます。

庶務課長（千場伊右エ内君）教育費について説明いたします。

教育費の教育委員会費、職員厚生費、五十二万七千四百円の追加でございますが、これは、先ほど秘書課長の方から申し上げました退職者による報償費でござい

ございます。

需用費で十八万四千円、追加があります。これは、社会教育主事が急にやめましたので、そうすると臨時としまして、その手当が十八万四千円、これは、社会教育費の方の吏員給を更正いたしましてここに計上いたしました。次に幼稚園費の需用費で三十五万六千四百円、賃金に計上されておりますが、これは、船形、北条幼稚園の定員がふえた関係のために、教諭が二人分追加された。その二人分の給与、その他でございます。これは、歳入で出て参ります。保育園の保育料の収入を財源として計上してあります。

それから、社会教育費の取員給、諸手当の四万七千円を更正いたしまして、これを旅費に四万七千円追加いたしました。

こゝは、鈴木社教の主任が今度教育主任講習会
に四八日間参ります。その旅費・日当・宿泊等の
費用でございす。よろしく願ひいたします。

・観光課長（小沢正治君）産業経済費のうち、才七項の
観光費について、説明申し上げます。

観光費におきまして、六十一万四千四百円を追加をお
願ひすこととなります。

おもむかうといはしめては、館山から那志に至りま
す海岸施設の補修関係でございす。

当初予算を計上するに際しまして、各施設を見て
まわり、補修計画を立てたわけでございます。
予算が成立いたしまして、いよいよ最近になりまして
実施の段階に至りまして、もう一度、詳しく施設を
見てまわりますと、当初計画いたしましたよりも

はるかにこめておりまして、そういう関係で工事請負
費といたしまして、海岸のいろいろな施設の補修工事
費といたしまして、四十二万三千二百円、これが大体現在あ
る施設を最低に維持するため、必要経費でございま
す。それから、報償費の九千円は、当初昨年もそうでござい
ました。館山小学校、北条小学校の四年生以上の子
供さんたちに海岸の危険物を拾っていたりする
お礼として鉛筆を二年ずつ差し上げておたわけ
でございしますが、実際の状況を見ますと、小学校の
高学年とそれから中学校の全生徒が参加している
というところでございます。

中学生は大きいからということでもそのまゝにするとい
うことも片手落ちということでも、今年には減らしまして、
小学校の五年生以上と関係の中学生に一本ずつ

ということにいたしましたしてその鉛筆に町つ美化運動、
海岸の清掃に使します標語を入りまして、そうい
た字をかねてこいを實施いたしたい。

次の賃金の十六万九千二百円は海岸をきれいにする
うということ人で人夫を本年はふやうで滞らせる。
一おし、ナセ、八万円の追加をいたしましても足らなく
なるような情勢でございす。極力勤勞奉仕等を
いたしまして、人夫賃を節減して参りたいというふう
に考えて参ります。

次の修繕料の一萬三千円、那古監視船の船体、及び
機関の修理代、やはり、いざシーズン開始ということ
になりますと、当初計画いたしましたものであります。必要
になつてくるということとで、こゝ際、追加をお願いする
のでございす。

合せまして六十一万四千四百円、是非追加をお願いしたいというものでございます。

選挙書記長（大嶋重義君）一一款選挙券費について、
や説明申し上げます。

三項の果会議員の選挙券費におきまして、これは、
更正でございますが、旅費で二万六千円、お願いし
ておりますが、これは、選挙事務を完全に処す
るために委員の先進地の事務視察の費用弁
償でございます。この財源は、九箇の賃金に
おきまして、臨時用人が当初予定したよりも、安
く上りまして、更正財源をもって充てようという
ものでございます。

次に備品費で三万五千円でございますが、これは、
用票所等の掃除のために、電気掃除器を購入

「たいと思つうでございます。この財源は、諸手当の超過勤務手当でございす。この当初三十一万三百万組んだでございす。スミズに南票事務が維持したために残が出さうで、これを財源に充てたいと思つうでございす。」

果合議員選挙費につきまうては、金額渠の委託金でまわつてあります。

・総務課長(山口実君)歳出合計、今回の追加額二百六十九万五千円、合計五億六千三十三万九千五百四十円、次に歳入に移ります。保育園保育料で

ございす。三十五万四千六百円、これは保育園五千人分、一年分の増収見込でございす。

次に国庫支出金でございす。市営住宅、国庫補助の基準率修正により、今回七十九万四

千円増額になったものをここに計上いたしました。
寄付金九十三万でございますが、これは、鋭切簡易
水道地元寄付金を一般会計に受け入れようとして、さら
にこれを特別会計に支出しようというものでございます。
次に繰入金六十一万四千六百円でございますが、これは、
休養施設の繰り越しをここに繰り入れようとして、
措置したものでございます。

歳入、今回の追加額、二百六十九万五千円、歳入合計
五億六千三十三万九千五百四十円、歳入歳出差引
き零でございます。よろしく御審議願います。
議長（黒川佐太郎君）暫時休憩いたします。

午後	三時一四分	休憩
午後	三時四二分	再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引続き、会議を開きます。

議案オ七七号を朗読いたします。

(書記朗読)

議案オ七七号

昭和三十八年度館山市特別会計国民健康保険歳入歳出追加更正予算。

秘書課長(小倉澄男君)中説明申し上げります。

国民健康保険の予算の中におきましても、やはり先ほど申し上げましたように、勘定大退取による報償費に充当するべく、吏員給から、更正いたしまして、取員厚生費、報償費に追加いたした次第でございます。

保険課長(池田亮山君)七七号議案の件費を

除きコーナもつにつまきいて、説明申し上げます。
事業勘定に追加更正予算案は、先ほど説明の
ありき、人事関係の追加でございます。

次に直診勘定に豊房診療所の追加更正のうち
まず、歳出の需用費について、説明申し上げます。
備品費におきまして、三十九万五千円、追加計上。
これは、今まで使用して、ありき、医師の往診用、
自動車に故障いたしまして、新規に買い換えよう
というものでございます。

自動車に故障を見積りいたさせ、三十九万五千
円、三十九万五千円、修理費を要するといふことでござ
います。新規に購入いたしても、三十九万五千
円でございます。いろいろ折衝いたしますと、修理を
要するもつ、下取りをいたしまして、十数万円で下取

リをする差引き二十九万五千円の新規の車に買
いかえることができる。かような次でございませう。

ここに三十九万五千円の追加といふことだ。

保険料でございすすが、これは、この車の車両保険料、
自動車損害賠償責任補償保険、新規に加入しま
す。車両に対する保険料の追加でございす。

人件費を含めまして、八十万、繰越金で財源を求め
まして、計上いたして、次でございす。

直診、事業勘定も含めまして、合計九千三百三十九
二千二百円、これが今回までの累計計上額でござ
います。

・秘書課長（小倉澄男君）一つ、落しこみで申し上げま
す。事業勘定並びに直診勘定に人事異動による増
加更正がございすので、了承願いたいと思ひます。

議長(黒川佐太郎君)議案オセ八号を上程いたします。

(書記朗読)

議案オセ八号

昭和三八年度館山市特別会計休養施設
歳入歳出追加更正予算。

・観光課長(小沢正治君)休養施設の追加更正予算でございすが、歳出から説明申し上げます。

需用費にございまして、二ナニ万九千円、追加をお願いするわけでございますが、内訳といたしましては、貸金一万六千円、これは夏約二カ月間、地元の見物部落におきまして、鳩山荘附近の海岸の清掃に當っておるわけでございますが、この報償的な意味で賃金計算をいたしまして、支出しておりますのですが、一般会計で一応観光費の方で計上いたしました。鳩山荘の方には負担をかけていたわけでございます。

ますが、その海洋の利用につきましては、鳩山荘
のむろさんが、大多数でございまして、鳩山荘で負
担することが妥当であろうということで本年一度一
日分負担するということにいたしました。
次に借料及び損料で寢具借上料十一万七千円、減額
でございしますが、これは、三月当初予算に際し、
寢具借上料の二万五千元を、金額備品費の寢具作製
費の方にまわして、大体四十万程度で寢具を作製する
ようにという希望に対して、市長の方からそのような
措置はないというお約束に關係でございしますが、本年
七月八日の利用申し込み状況をみますと、二万五千元
額、ふとんの借上料を切つて、もうということは、どうい
できない状況でございまして、備品費に二十三万二千円
追加いたしました。当初計画の五〇組を一三〇組、作製

というように切りかえたわけでございます。

それでもなお、一ヶ月組の借り上げを二ヶ月に延ばらないといふ利用状況でございますので、二千万更正を十一万七千円にいたしまして、九万三千円借料及び損料に残すわけでございます。

修繕料は看板塗装でございます。それと屋根がだいぶんはげてきておりまして、既に建設後四年に及びますので、この際足場をかけてそうらの工事をいたします関係上、足場の経費がばかにかからない。

そこで当初の計画では、足場の経費より塗装の経費の方が下回れる計画であつたのでありますが、塗装部分全面的にやりかえるべきであらうという考えから足場をかけてたついでに全面的に塗装をやる。まあ、こうということでは九万八千円追加をお願いする。

わけでございます。

次の諸支出金、六十一万四千六百円の一般会計の追加
加算源に充当するわけでございます。これを合せて
して休養施設の歳出合計八十四万三千六百円の増
加額となるわけでございます。

この取源といしましては、三十七年度、歳入歳出繰越金
にまきこめて、相当予算がございすので、八十四万三千
六百円繰越金をもつて充当するというわけでございます。
議長（黒川佐太郎君）議案オ七九号を上げます。

（書記朗読）

議案オ七九号

昭和三十八年度徳山市特別会計脱切

簡易水道歳入歳出追加更正予算

・厚生課長（吉田新一君）議案オ七九号につきまて、予説

明申し上げます。

最初に歳末から、ゆ説明申し上げます。いたしたいと存じます。

簡易水道の事業費でございますが、当初におきまして大体見込みを二千五百円程度で計画を立て予算をお願いいたわけでございます。その後におきまして、実際の細かい設計等に準拠いたし、ところどころ、二千二百万余円でございますというふうな見通いがつきまして、今回更正をお願いいたしたい。このように考える次第でございます。

事業費でございますが、当初におきまして二千四百七十万を見込んでいたわけでございます。

調査費につきましては特に精査費につきましては、七年度中に実施いたしましたので完了いたしておりますので、八年度におきましての調査の必要がないだろうと

いうよう、関係からいまして、調査費を減額とい
 して、委託料の十万円程度を更正いたしました。
 ここにお願いしようというものでございます。

大体調査費の八十五万円うち、十万円に更正い
 たしまして、七十五万円を減額いたしません。こう
 いうに考えます。次でございす。

次の簡易水道の新設費でございす。が、二千三百
 八十五万円を見込んでおいたわけでございますが、設
 計等にきく、二千二百二十万で見込めるといふよう
 な関係からいまして、二百六十五万程度減額いた
 したい。このように考えます。次でございす。

次の公債費でございす。が、起債をいかに、初年
 度におきまして、利子の払い込みというふうなものを
 考えまして、この程度の公債利子を計上いたしたいと

考えるわけでございます。

予備費は、総体の面から見きりて九万七千余円を減額いたしました。十四万二千余円に更正いたしません。

このように考えるわけでございます。

歳出合計、二千五百二十四万二千円に對しきりて、三千三百九十九万八千円の減額をいたしました。二千二百十萬四千百円というものによりきりて、水道事業を見成いたしません。このように考えるわけでございます。

歳入について、説明申し上げます。

その年の歳入に基ききりて、歳入を見たりてでございます。

國庫支出金でございますが、当初八百万を見たりてでございます。

これは、國の補助金をいろいろの關係から多少、当初に

見込が過ぎたというふうに考えます。なお、国、県、補助金等、からか合せると、大体確定の額がわかりましたので、国、補助金におきましては、五百十五万円、県補助金におきましては、百三十七万円、というものが大体確定した補助額というふうな確認を得ましたので、ここに更正しようというものでございます。

次に繰入金でございしますが、当初におきまして三百六十五万円を繰り入れ見込みといたしたわけでございます。なお、その後、加入状況というふうな面から見ると、まだ九十三万程度の繰り入れをお願いできるというふうな関係からいたしまして、一般会計への寄付金の面にも、先ほど総務課長から説明のありましたように、九十三万円を計上いたしまして、今回、これを九十三万追加いたしましたので、四百五十八万円ということをお願いいたします。

このように考える次第でございます。

市債でございますが、当初におきまして、千二百万円を見込んでおりましたが、事業費が減ったというふうな観点からいたしまして、千百万円程度を市債にあおぎたい。このように考えて、百万円の減額をいたしまして、千百万円に更正いたしたい。このように考える次第でございます。

その他、雑収入等は、預金利子とある程度見込んで計上したわけでございます。

歳入合計二千五百二十四万二千円に対して、三百十三万九千八百円を減額いたしましたので、二千二百一十四万八千四百円とあるわけでございます。以上のような次第で

本事業を完成いたしたいと考える次第でございます。

・議長(黒川佐太郎君) 日程第一七臨時出納検査立会人

の互選を行います。

おはかりいたします。

選挙の方法は、地方自治法第一一八条第二項の規定により、指名推選の方法にしたいと思ひます。

これに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 於て異議なしと認めます。よつて選挙の方法は、指名推選の方法にすることに決まりました。

重ねておはかりいたします。指名の方法は、議長において指名することに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 於て異議なしと認めます。

よつて議長において指名することに決定いたしました。

により指名いたします。

一四番議員 志村信作君 二番議員 君塚喜三君
三番議員 高橋文治君 三番議員 山口 康君
以上四議員君を指名いたします。

おはかりいたします。

ただいま、議長において指名いたしました四議員君を
八月実施の臨時出納検査の立会議員の当選人
と定めますことに決まりました。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)が異議なしと認めます。よって
ただいま指名いたしました四議員君が八月実施の
臨時出納検査の立会人に当選されました。

四議員君が議場にあらはれますので、本席より会議規
則の三二条の二項の規定により告知いたします。

日程才一八、消防委員会委員の決定を行います。
本市の消防委員会条例によりますと、議会より
四名の委員を互選することになっております。
おわかりいたします。

選挙の方法は地方自治法才二八条才二項の規定
により指名推薦によりたいと思います。

これに片翼議ありませんか。

(「翼議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)片翼議なしと認めます。

さて選挙の方法は指名推薦によろことに決ま
りました。

重ねておわかりいたします。

指名の方法は議長において指名いたしたいと思
います。これに片翼議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)「異議なし」と認めます。

よって議長において指名することに決まりました。

こゝより指名いたします。消防委員会委員、

二番議員、鈴木正一郎君、九番議員、藤田好治君

三番議員、安藤竜吉君、三番議員、高橋文治君

以上四議員君を指名いたします。

おわかりいたします。

ただいま議長において指名いたしました四議員君を

消防委員会委員の当選人と定めますことにし、異

議ありません。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)「異議なし」と認めます。よってただ

いま指名いたしました四議員君が消防委員会委員

に当選さるゝことだ。

ただいま消防委員会委員に当選さるゝことだ。四議員
君が議場にいららるゝので、本席より会議規則
の三二条の二項の規定により告知いたします。

今日の会議はこれにて延会いたします。

次会は明天月二五日午前一時開会いたします。
その議事は、本日に引き続き未決議案の審議といた
します。

午後四時十七分 延会。

今日の会議に付いた事件。

一 開会

一 議長報告（出席説明者）

一、會議録署名議員指名

一、会期決定

一、市長・議案提案説明

一、報告才七号、才八号

一、通告雙河

一、議案才六二号、才七九号

一、臨時出納検査立会議員の互選について

一、消防委員会委員選任について

出席議員

吉田勇治郎

鈴木正一郎

小柴孝

熊石伝藏

田中祿郎

秋山大三郎

田村源治郎

望月照正

安西益男

辻田 実

石井 正

黒川佐太郎

菊井敏博

志村信作

小沢惠太郎

関 武夫

飯田義男

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

荻菅七郎

鈴木 孝

嶋田 繁

山田教字

鈴木市藏

安藤龜吉

安沢徳順

三沢 節

高橋文治

山本 昇

松本藤太郎

山口 康

